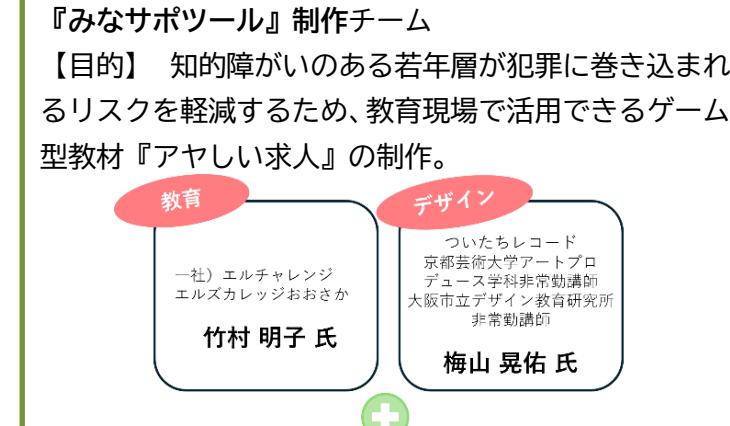
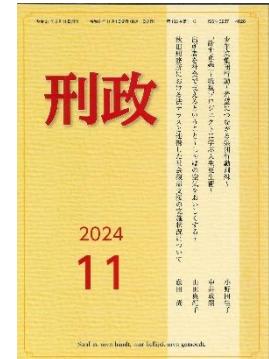


## 令和6年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成「事業評価」(事業概要)

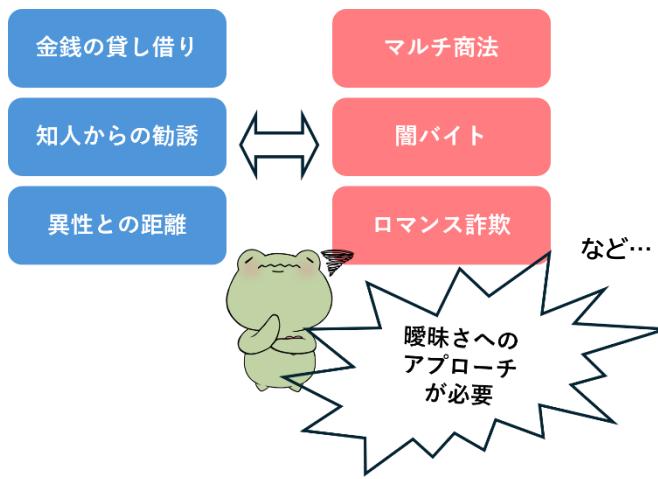
|         |                          |  |
|---------|--------------------------|--|
| 団体名     | 一般社団法人よりそいネットおおさか        |  |
| 事業名     | 福祉と連動する更生支援を通じた地域共生社会の実現 |  |
| 実施期間    | 2024年4月1日～2025年3月31日     |  |
| 助成(実績)額 | 5,000,000円               |  |

| 事業概要  | 事業実績   | 事業を実施したことによる成果  |
|---|--|---|
| <p>◆昨年の活動から得た気づき</p> <p>本事業は、令和3年度に開始された被疑者等支援事業を背景に、逮捕された障がいのある方や高齢者への合理的配慮のあり方に着目し、本人の目線に立った環境改善を目的として実施してきました。</p> <p>司法福祉分野の専門家とともにプロジェクトチームを結成し、現場で実際に活用できる支援ツールの開発に取り組みました。その成果として、以下の3種類のツールを作成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「気持ちととのえ MASSE シート」</li> <li>「わたしのことを知ってくださいシート」</li> <li>「司法福祉カード」</li> </ul> <p>活動の認知拡大と協働体制の構築を目的としてフォーラムを開催し、大阪府内にとどまらず、全国の支援者や研究者の関心を高めることができました。また、事業の広告塔となるキャラクター「ほっこりん」を制作し、広報活動にも活用しています。</p>  <p>今年度は、作成した「入口支援サポートグッズ」や「私を知ってくださいシート」などの既存ツールについても、使用者から寄せられた意見をもとに改良を重ねました。弁護士会や福祉支援者向けの研修会、司法関係機関の会議などを通じて、実際の支援現場での活用促進にも努めました。</p>   | <p>◆既存ツールの改良と普及促進</p> <p>令和5年度に作成した各種ツールについて、使用者からの意見を反映するなど改良に向けた協議と、活用促進に向けた説明会を実施しました。</p> <p>◆新しいプロジェクトの始動</p> <p>教材開発と新規ツール制作に向け、学生ボランティアや教育関係者によるプロジェクトチームを発足しました。</p> <p>『みなサポツール』制作チーム<br/>【目的】 知的障がいのある若年層が犯罪に巻き込まれるリスクを軽減するため、教育現場で活用できるゲーム型教材『アヤしい求人』の制作。</p>  <p>教育<br/>（一社）エルチャレンジ<br/>エルズカレッジおおさか<br/>竹村 明子 氏</p> <p>デザイン<br/>ついたちレコード<br/>京都芸術大学アートプロ<br/>デュース学科非常勤講師<br/>大阪市立デザイン教育研究所<br/>非常勤講師<br/>梅山 晃佑 氏</p> <p>大阪市立デザイン教育研究所<br/>ボランティア学生 3名</p> <p>【その他の協力者や参考にした資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボードゲームカフェ訪問／オーナーとの協議</li> <li>・少年鑑別所職員へのヒアリング</li> <li>・なにわ高等支援学校 校長・副校長からヒアリング</li> <li>・パーソルキャリア（株）顧問 原野氏からのヒアリング</li> </ul> <p>※「みなサポツール」は、「犯罪予防」という直接的な表現を避け、プレイヤーが主体的に考えて取り組み、「みんなで支え合う」という意味を込め、名づけられました。</p> <p>◆情報発信</p> <p>公式 Instagram を開設し、教材制作過程やイベント情報を発信した結果、フォロワーは 82 名に達しました。</p> <p>また、各種ツールを法人ホームページ上で公開し、全国</p> | <p>◆メディア掲載による認知拡大</p> <p>令和7年6月に施行される拘禁刑に伴い、受刑者一人ひとりの特性に応じた対応が矯正施設に求められる中、本事業の取り組みが法務省矯正局の注目を受け、『刑政』（令和6年11月号）に寄稿文として掲載され、特に、昨年度作成した「入口支援サポートグッズ」の活用促進につながる情報発信となりました。</p> <p>※『刑政』は、刑事政策に関する学術雑誌であると同時に矯正施設職員向けの部内機関誌としても活用されており、掲載により矯正職員や関係者間での理解・認知が進むと期待されます。</p>  <p>◆司法福祉カードのバージョンアップと自治体への波及</p> <p>『司法福祉カード』は内容が分かりにくいとの声を受け、令和7年3月に裏面に説明文を追加した新仕様を公開しました。これにより、学生や地域支援者、矯正施設職員など幅広い層で教材として活用できる利便性が向上しました。この新たな『司法福祉カード』は、当法人のホームページに掲載し、誰でも自由にダウンロード・活用できるようにしました。</p> <p>また、堺市社会福祉協議会の『さかいのふくしカード』を参考に制作しており、次年度には堺市からの提案で、ソーシャルワーク研修のテーマを「更生支援」と設定されました。企画段階から本事業が参画する協働研修が実現予定で、自治体レベルでのモデルケースとして他地域への波及も期待されます。</p>  <p>表面<br/>裏面</p> <p>◆大阪信用金庫 様との連携による官民協働の更生支援</p> <p>小学生向け金融教育活動を行う大阪信用金庫に働きかけを行い、教材制作やリテラシー教育の参考としました。そのつながりを契機に、刑務所内の金銭教育プログラムが発展し、現在、準備が進行中です。大阪府との包括連携協定に基づき、令和7年度より実施予定で、官民協働による更生支援の新たなモデル事業として注目されています。</p> <p>◆当事者ヒアリングに基づく学術研究への展開</p> <p>昨年度の「気持ちととのえ MASSE 会議」における当事者ヒアリングの内容を基に、詳細な分析を加え、『障がいを抱えた方が逮捕から判決までの刑事手続きにおいて感じた主観的な思いに関する研究』が進行中です。研究は足立一氏（本P）</p> |

## ◆新たな課題の発見から

上記の活動に伴い、主に知的障がいのある方の視点を追求するため支援学校等の教育機関や教育専門家との意見交換や授業見学を行う中で、新たな課題も明らかになりました。

特に、いわゆる「曖昧な領域」が理解しづらい特性をもつ方にとって、どこからが犯罪に該当するのかを学ぶ機会がほとんどない現状が確認されました。気づかぬうちに犯罪の被害者にも加害者にもなり得る状況がある一方で、それを防ぐための教育的アプローチや教材が極めて不足しているという点です。



これらの気づきを踏まえ、令和6年度は従来の「犯罪に至った後の支援」に加え、「犯罪に至らないための予防的な支援」を重要な柱の一つとして、以下の内容に取り組みます。

- ① 既存の支援ツールを実際の支援現場で活用してもうことで、当事者に対してのよりわかりやすい説明や意思決定支援につなげる体制を強化
- ② 知的障がいのある方が加害者や被害者にならないための教養を育む教育教材づくり（予防的な支援）
- ③ 社会全体の理解を広げるため、マスコットキャラクターを活用した情報発信やネットワークづくり

の支援者が自由に活用できる環境を整えました。



## ◆フォーラム・研修等の開催

日時：令和7年3月26日（水）

場所：大阪府社会福祉会館301・ハイブリッド

テーマ：刑事手続きの中で福祉職にできること～入口支援を考える～



講師：水藤昌彦 先生/足立一 先生/井口光奈 先生/三浦紀夫 先生/堀毛忠弘 先生/石田周良 先生/大阪市立デザイン教育研究所 学生

参加者：122名（オンライン・79名 会場・43名）

法改正に伴い、矯正施設内での取り組みに注目が集まる一方で、刑事手続きに乗った一人の人を支える流れの中には、矯正施設の職員だけでなく、地域の福祉支援者、弁護士、行政など、様々な立場から更生を支えている人たちの存在があることが、フォーラムを通じて共有されました。

アンケートでは、「多様な分野の実践者の話を一度に聞けたことが有意義だった」「更生支援は矯正施設だけで完結するものではなく、地域全体で担われていることが理解できた」といった声が多く寄せられました。来場者とともに、更生支援を社会全体の課題として捉え直す機会となり、地域における支援の広がりと可能性を確認する場となりました。

## ◆次なる活動に向けた連携と拡大

次年度以降の活動を見据え、全国的な協力体制の構築や新たな取り組みの可能性を模索しました。その一環として、小学生向けの金融教育活動を実施している大阪信用金庫に働きかけを行い教材づくりの参考としました。

プロジェクト学識経験者) が中心となり、共同研究者の常葉大学・吉田裕紀氏が研究代表を務めています。特に「勾留中の支援の在り方」に焦点をあて、当事業との連携を図りつつ、独立した研究として発展させていく予定です。

## ◆カードゲーム型教材 「アヤしい求人」

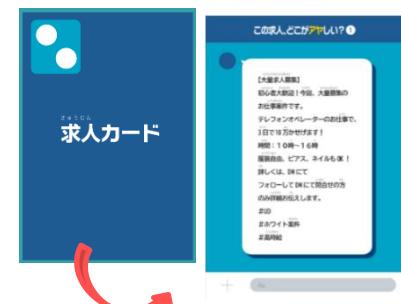
「遊びながら学ぶ “をコンセプトに、知的障がいや若者をターゲットとしたカードゲーム型教材『アヤしい求人』を制作しました。SNSで流れてくる求人情報を題材とし、求人に関する正しい知識と危険なサインに気付く力を養う教材を目指しました。

高等学校や支援学校等の教育現場や、障がい支援事業所等での活用を想定しており、近年話題となっている「闇バイト」について被害者にも加害者にもさせない、予防的なツールとして期待されています。

制作過程には、デザインを専攻とする学生が教材のデザイン制作や公式 Instagram での発信にボランティアとして協力し、司法福祉領域への関心拡大にもつながりました。これまで司法も福祉も専攻していないデザインを学ぶ学生がボランティアとしてチームメンバーに参加し、“遊びながら学ぶ” の視点を大切にしたことで、結果的に、元々ターゲットとしていた知的障がいのある方に限らず、「若年者」にも焦点を当てることができるコンテンツとなりました。

### 【遊び方】

- ① 実際に遊ぶときは青色の【求人カード】を山札からめくり、そこに書かれている求人を読み、「アヤしい」ポイントを探します。



- ② 自身がアヤしいと思ったところに、自身のコマを置き、なぜアヤしいと思ったかを全員でシェアします。
- ③ オレンジ色の【解説カード】をめくり解説を読んで答え合わせをします。

- ④ アヤしいポイントを答えられた人にポイントが与えられ、最終的に一番多くポイントを持っていたプレイヤーが勝ちとなります。



求人情報について最低限の知識を学ぶことや、求人を見た際の違和感に気付く習慣を身に付けることを目指しています。

## ◆今後の活動の方針

- 各ツールや教材の利用促進と継続的な改良
- 「アヤしい求人」の教育現場や矯正施設での活用と普及
- 新たな教材開発やフォーラム開催を通じた、予防的支援の視点の浸透

特にフォーラム参加者のアンケートでは「予防的支援の重要性」に共感する声を多くいただき、当事業の目指す方向性に対する一定の評価が得られました。今後は教育現場での普及と、事業終了後も継続可能な取り組みとなることを目指し、広報活動や改良を目指します。

『刑事手続きすごろく』については、子ども食堂での活用や少年事件の刑事手続きについてツール化の要望があり、来年度は「少年版・刑事手続きすごろく」の作成を予定しています。また、『気持ちととのえ MASSE 体操』はヨガをベースに構成し、心身セルフケアのためのプログラムとして新たに開発を進めます。

これらの継続的な改良により、支援ツールの質向上だけでなく、支援現場との信頼関係の深化や、地域における支援ネットワークの強化につながることを目指します。

